

キャラクター名 プレイヤー名

メインクラス	ナイト	Lv.1:	ウォーリア	レベル	16
サポートクラス	モンク	Lv.1:	モンク	性別	女性
称号クラス				年齢	不明
種族	ドゥアン			境遇	没落
出自 (効果)	闇の一族			目標	無目的

	筋力	器用	敏捷	知力	感知	精神	幸運
基本値	45	22	24	6	9	9	9
ボーナス	15	7	8	2	3	3	3
クラス修正	3	1	2	0	0	2	0
他修正							
能力値	18	8	10	2	3	5	3

HP	211
MP	97
フェイト	5

装備品		射程	命中	攻撃	回避	物防	魔防	行動	移動
右手	紫電剣	至近	-1	14	0	0	0	0	0
左手	マジックシールド		0	0	0	3	10	0	0
頭部	魔骨の兜				-1	9			修正
胴部	ドラゴンメイル				-3	15	10	-3	修正
補助	巨人の手袋					3			
装身具	豪傑の証		1			5			
能力値			8	0	10	0	5	13	23
スキル	パッシブ効果		1d+1	3d		29	21		
その他	セットアップ +ディフェンダー使用時		1d	6d+24		15	15		
総計(右)			8	14					
総計(左)			9	0	6	79	61	10	23
総計(両)									m
ダイス数			4 d	11 d	2 d				

	能力値	スキル	その他	合計	ダイス数
トラップ探知	3			3	+ 2 d
トラップ解除	8			8	+ 2 d
危険感知	3			3	+ 2 d
エネミー識別	2			2	+ 2 d
アイテム鑑定	2			2	+ 2 d
魔術判定					+ d
呪歌判定					+ d
錬金術判定					+ d

所持品	
グレートHPポーション	
グレートMPポーション	
毒消し	
万能薬	
アンチポーション	
冒険者セット	
バックパック*1	
使用済みアイテム	

現在重量:	22	所持金:	0	預金・借金:	510000
-------	----	------	---	--------	--------

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
タフネス	★	-	パッシブ	-	-	-		
効果: 有角族、作成時に筋力基本値+3								
ディフェンダー	5	3	マイナー	-	自身	自動成功		
効果: 物理防御に+[SL*3]。シーン終了まで。								
マジックディフェンダー	★	-	パッシブ	-	自身	-		
効果: ディフェンダーの効果を「物理・魔法防御に+[SL*3]」に変更する。								
フルディフェンス	★	5	フリー		自身	自動成功		
効果: 《ディフェンダー》を使用する。								
通常攻撃セット	◇							
効果:								
グランディア	5	5	セットアップ		自身	自動成功		
効果: シーン中、武器攻撃ダメージに+[(SL)D]								
アグランダイズ	2	5	グランディア		自身	自動成功		
効果: 命中判定+1D、ダメージ+[SL*3]								
スマッシュ	★	5	マイナー		自身	自動成功		
効果: 白兵攻撃ダメージに+[筋力]								
バッシュ	1	4	Xジャー		自身	命中		
効果: 武器攻撃ダメージに+[(SL)D]								
限定火力UP	◇							
効果:								
スラッシュブロウ	1	3	DR直前		自身	自動成功	1/S	
効果: 武器攻撃ダメージに+[(SL*2)D]								
フロントアルサルト	★		効果参照		自身	自動成功	1/S	
効果: 武器攻撃と同時に使用しダメージに+[筋力基本値]								
ボルテクスアタック	★		効果参照		自身	自動成功	1/G	
効果: 武器攻撃と同時に使用し[対象:単体]とし、ダメージに+[CL*10]								
ソウルバスター	★	-	効果参照	効果参照	単体	自動成功	1/G	
効果: 攻撃ダメージを受けた直後、受けたHPダメージと同じ値だけHPロスを与える。								
カバー関連	◇							
効果:								

かつては闇の一族としてその名を馳せた家だったが、ある日を境に一族は幼い彼女だけを残して謎の死を遂げ没落してしまう。自らの名も知らぬまま育った彼女も、花を愛でることが好きな1人の女の子だった。名も無き少女は「守護」という花言葉を持った大好きな花「ブローディア」と名乗り、いつしか当てもない冒険者となっていた。

-EP.1-
貴方はこの町に滞在している間、奇縁により冒険者の酒場の用心棒として雇われている。ある日、店主のウィグロから相談事を持ちかけられた。曰く、冒険者失踪事件。明らかに酒場の利用者が減っているとのこと。酒場の用心棒の役目を逸している気はしないではないが……押し切られた。

-EP.2-
最近この酒場で見る顔が一人増えた。サムライ——それも凄まじい力量を持つ怪物だ。その一撃を君は防ぎきれぬだろうか？その問いは君の好奇心を刺激する。向こうも同じ考えか視線に殺気を過らせる。いいじゃないか、鯉口を切れ。言葉なんて野暮な物は——そこでいつもウィグロに叩かれる。しかし、感じている。貴方はこのサムライと決着をつける運命にあると。

-EP.3-
この酒場には自分は貢献していると考え。最近になって様々な冒険を熟している事が知られ、

